乳幼児の英語学習 加速

20年度に小学校教科化 幼稚園で授業も

乳幼児に英語を教える教室が盛況だ。英会話教室には0～6歳児の入会者が多く、英語クラスを設ける私立幼稚園も目立つ。2020年度には小学5、6年で英語が正式教科になり、大学入試改革で英語4技能の重要度が増す。我が子が将来困らないように、早い時期から英語に慣れさせたいという親心を捉えたようだ。

■0～6歳児増

「I'm happy（私は幸せです）」

今月上旬の夕方、大阪府茨木市の英会話教室「BE（ビー） Studio（スタジオ）」から子供たちの元気な声が聞こえてきた。3～5歳児のクラスでは女児3人が、ハンガリー出身で英語に堪能な講師マヨル・エメシェさん(30)と週1回1時間、歌やゲームをしながら英語を学ぶ。

教育事業大手「ベネッセホールディングス」（岡山市）傘下の会社が全国約1700か所で展開。0歳児から高校生を対象とするが、在籍者の低年齢化が進み、0～6歳児は今年、前年比で8%増えた。1月に商業施設内にオープンした茨木市の教室には約200人が通い、乳幼児が約75%を占める。

次女の愛結（あゆか）ちゃん(4)を通わせる同市の主婦川上理加さん( )は「私は英語を話せないが、これからの大学入試では英語を話す力も求められるようになる。幼い頃から英語を身につけさせ、つまずかないようにしてやりたい」と話す。

英会話教室大手のECC（大阪市）も子供向け英会話教室「ECCジュニア」をフランチャイズ方式で1980年に始めた。今年6月時点で利用する2～6歳児は全国で約3万3000人で、5年前と比べて2割増加した。

外国人講師に英語を教わる子供たち（今月上旬、大阪府茨木市で）＝大石健登撮影

■ネイティブ並み

保護者からのニーズの高まりを受け、英語クラスを設ける私立幼稚園もある。

大阪府高槻市の「白ばら幼稚園」は2017年度に英語クラスを始め、年少(3～4歳児)、年中（4～5歳児）組の計63人が通う。米国やカナダ出身の教師らが平日朝に1時間の授業を行い、午前中は園内に残って園児と英語で触れ合う。年少で聞き取りに支障はなくなり、年中で会話ができ始め、「発音はネイティブと変わらない」（外国人英語教師）という。

近くに設けた「ホワイトローズ英会話学校」では、入園前の2歳児向けに週2～3回の英語保育を行っている。卒園者らも通い、森田真弘園長は「子供たちが長期的に英語と関わる環境を提供したい」と語る。

英語教育事業を展開する「グレープシティ」（仙台市）は、毎日英語に触れて母語のように自然と身につけるカリキュラムを開発し、幼稚園を中心に導入を進める。09年に全国展開を始め、堺市の私立幼稚園など約200施設が利用する。

幼児の英語教育事業に詳しい船井総合研究所の犬塚義人・上席コンサルタントの話「親の世代は学校教育で英語が身につかなかった人が多い。その分、子供には早く英語に慣れさせ、将来の大学入試にも備えさせたいという思いがある。日本語の教育もしっかりしながら英語の力を伸ばすことが必要だ」

英語4技能　読む、聞く、話す、書く。現在の大学入試センター試験の英語ではマークシート式の問題で「読む」、リスニングテストで「聞く」を評価しているが、2021年1月に導入される大学入学共通テストでは、「話す」「書く」を加えた4技能を測る民間試験が活用される。